

自己評価報告書(最終報告)

報告者

社会系コース／畠山 輝雄

■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 教員養成大学教員としての授業実践

中央教育審議会は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」答申したが（平成24年8月28日）、その中で「教員を高度専門職業人として明確に位置付ける」と提言している。この答申の考え方を実現するため、教員養成大学に籍を置く教員として、将来、教師を目指す学生に対してどのような授業実践を展開すればよいか。あなたの取り組みを、①授業内容、②授業方法、③成績評価の三つの観点から示してほしい。

1. 目標・計画

- ①授業内容: 現代社会で実際に起きている地域問題に対して、タイムリーに把握できるように、新聞記事等を使用しながらわかりやすく解説する。特に、地理学的観点から「地域特性」を明らかにするために、他地域との比較をしながら授業を行う。
- ②授業方法: 積極的かつ、主体的な教員を育成すべく、学生に授業内容について主体的に考えさせ、積極的な意見を求める。
- ③上記観点から、①と②を実践できた学生に良い評価を与える。

2. 点検・評価

年度目標の通り、学生の理解度に合わせながら授業、成績評価を行うことができた。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ－1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

将来教員を目指す学生であることから、自分の考えで主体的かつ積極的に行動できる学生を育てたい。このことから、授業についても学生を主体とした授業を行い、学生の発言を取り入れながら進めていきたい。学生の発表やディスカッションも多く行い、それに対して建設的な助言をしていきたい。

2. 点検・評価

年度目標の通り、授業において積極的なディスカッションを実施し、また学生による発表や討論を行うことができた。さらに、それらに対して助言をすることで学生・院生のレベルアップを図ることができた。

Ⅱ－2. 研究

1. 目標・計画

地域貢献を考え、徳島県内をフィールドとした研究をしたい。まず、地域を知るためにフィールドリサーチをしたい。具体的には、徳島県の農山漁村地域における介護保険サービスの実態を明らかにしたい。これまで、東日本を中心とした介護保険サービスの実態に関する研究を行ってきたが、それらとの比較をしたい。また、公共施設の管理・運営方策としてのネーミングライツの実践についても、徳島県の取り組みを考察しながら、公共施設の名称が変更されることに関する地域への影響について明らかにしたい。

2. 点検・評価

地域貢献を考慮しつつ、三好市と那賀町において市町村合併に関する研究(特に高齢者福祉を中心とする)のフィールドリサーチを実施した。また、徳島県内の公共施設へのネーミングライツに関する取り組みについて、行政とスポンサーに対して聞き取り調査を実施し、その結果を日本大学地理学会と日本地理学会にて発表した。いずれの研究も次年度より本格的な調査を実施する予定である。

Ⅱ-3. 大学運営

1. 目標・計画

まず、着任初年度であることから、大学運営の実態について知るところから始めたい。具体的には不明な点が多いため、学生の能力に合わせた授業をるところから始め、主体的・積極的な教員を育成したい。そのうえで、受験生を増加させるべく、広報活動も積極的に行いたい。

2. 点検・評価

教育実習への訪問や研究授業への参加、教育実践フィールド研究における指導など、学生のスキルアップのための支援を積極的に行った。また、関係各所において受験生を増加させるべく広報活動も行った。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

附属学校との連携については、新人研修等を活かしながら、本学の学生における附属学校での実務経験の蓄積、また附属学校教員における本学でのスキルアップなど連携・交流を進めたい。社会との連携については、徳島県内の行政組織および研究機関等と連携しながら、研究活動を進め、社会に還元していきたい。

2. 点検・評価

Ⅱ-3で触れたように、附属学校等への教育実習の指導を行ったほか、附属中学校の研究授業への参加、教育実践フィールド研究における附属中学校との連携を行った。また、Ⅱ-2でも触れたように、徳島県内の行政組織(徳島県、三好市)や研究機関等(徳島地方自治研究所)と連携しながら研究活動を進めた。また、その成果を学会等で発表した。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

着任初年度であることから、直接的な大学運営には貢献することができたとはいえないが、授業や修士論文・教育実習などの指導という教育面において貢献することができたと考えている。